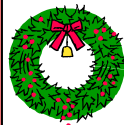


ビケンワクチンニュース

【2005年12月号】



新型インフルエンザ対策

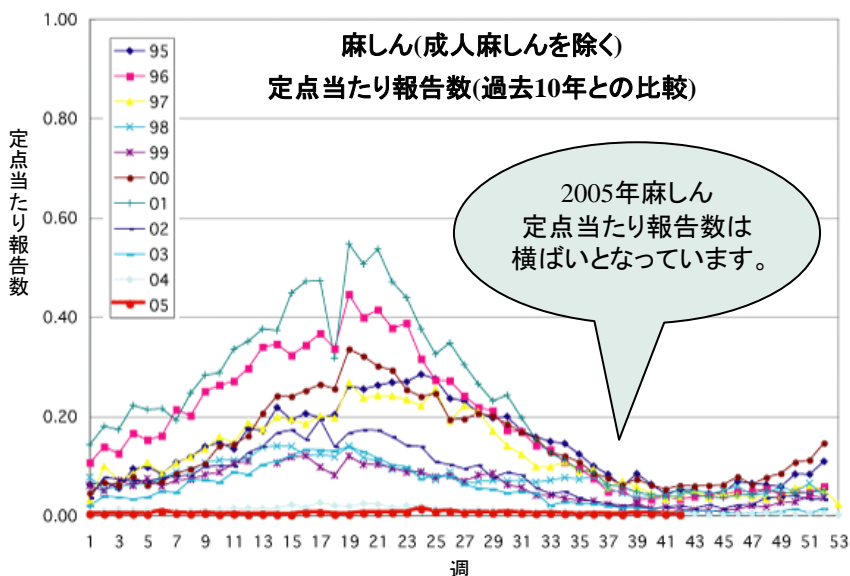
新型インフルエンザは10年から40年周期で不連続変異により出現し、世界的に大きな被害(インフルエンザパンデミック)をもたらしています。国際的なパンデミック対策としては、世界保健機関(WHO)により、2005年5月に「WHO世界インフルエンザ事前対策計画」が発表されました。日本では、厚生労働省により「新型インフルエンザ対策に関する検討小委員会」が設置され、「新型インフルエンザ対策行動計画」が発表されました。行動計画では、国内での流行規模を、全人口の25%が罹患したと想定し、医療機関受診患者数を約1300万～2500万人と推計しています。また、受診患者数2500万人を基に、入院患者数を約53万～200万人、死亡者数を約17万～64万人と推定しています。

<厚生労働省におけるインフルエンザパンデミックフェーズ >

パンデミックフェーズ		対策 (A:国外で発生 B:国内でも発生)
1	動物からウイルス検出	国内外の情報収集
2	ヒトへの感染リスク高まる	AB 渡航に注意喚起、家きん類の感染防止
3	動物からヒトに感染(現段階)	A 治験薬の備蓄、ワクチン開発
		B 患者の出国自粛要請、防疫の徹底
4・5	ヒトからヒトに感染	A 流行地からの検疫強化
		B 患者への入院勧告、集会への自粛勧告
6	ヒトで大流行	A 航空、船舶の国際線の運行自粛要請
		B 非常事態宣言

新型インフルエンザ対策行動計画 厚生労働省(平成17年11月) <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou04/index.html>

2005年 麻疹患者数減少!



麻疹は2001年度に大流行するなど、日本においていまだ重要な疾患です。しかし、2001年から一歳児における接種率向上のための啓発活動が開始されたことなどにより、報告数の減少が続いています。今後も、流行を起こさず、日本からの排除を目指すために、2006年度より麻疹・風疹混合ワクチンによる二回接種が導入されます。なお、混合ワクチンによる定期の予防接種の接種対象者に充分ご注意ください。

<http://idsc.nih.gov/idwr/kanja/weeklygraph/12measles.html>



企画編集 : 財団法人阪大微生物病研究会 (<http://www.biken.or.jp>)
 12月号担当 : 藤田、福田、福原、正田、村木、高木、上野、鈴木、武田
 発行 : 財団法人阪大微生物病研究会/田辺製薬株式会社

▲上記本文中のホームページの内容に関するお問い合わせは、お受けしていません。

